

一般国道106号宮古地区における検討結果

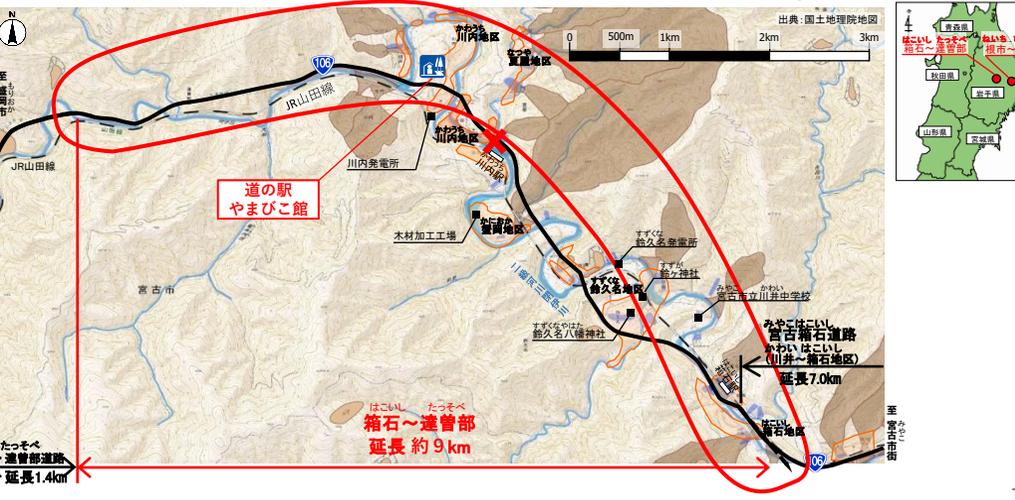
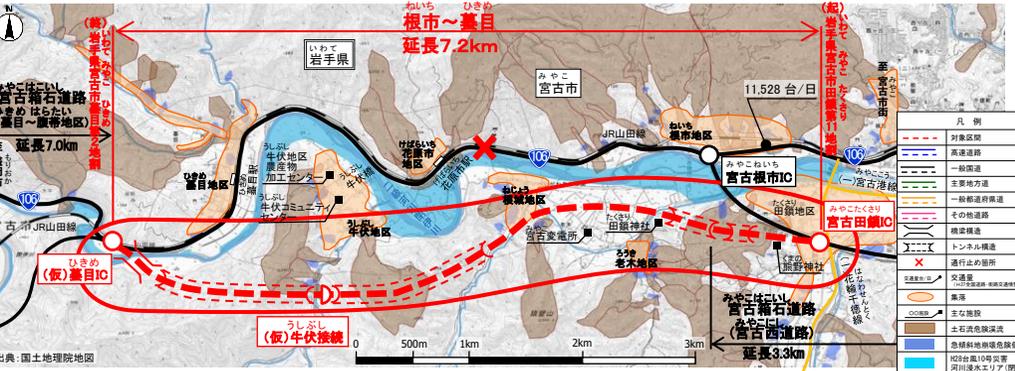
【岩手県における検討経緯】

平成28年 8月	台風第10号災害により国道106号で11日間の全面通行止めが発生 ⇒被災区間の防災機能強化に向けた調査を開始
平成30年 9月	第1回国道106号宮古地区防災対策検討協議会
平成31年 1月	第2回国道106号宮古地区防災対策検討協議会 ⇒有識者と国を交えて、国道106号宮古地区における現状と課題や整備の必要性を整理し、防災上の課題が集中している根市～墓目、箱石～達曾部の2区間についてルート帯を検討
平成31年 4月	国において「直轄による権限代行実施の検討を行うための調査」に着手
令和元年 8月	地元説明会開催による地域住民へのルート帯案の提示 ⇒ルート帯の合意形成を図り、ルート帯を決定
令和元年12月	第1回国道106号宮古地区道路技術検討会
令和2年 2月	第2回国道106号宮古地区道路技術検討会 ⇒有識者と国を交えて、詳細ルート・構造の検討および決定 ⇒根市～墓目間（田鎖墓目）については、国において技術的課題を検討した結果、事業実施には高度な技術力が必要とされることを確認
令和2年 4月	箱石～達曾部については、技術的課題や詳細ルートの検討を継続

【求められる機能】

- ①自然災害に強いネットワークの確保**
災害時の交通障害や道路寸断による孤立発生等を回避し、自然災害に強い道路ネットワークを確保することが必要。
- ②救急医療活動の支援**
宮古地域※には三次救急医療施設がなく、管外搬送先には内陸部の三次救急医療施設である「岩手医科大学附属病院」に搬送されており、到着時間の短縮と走行性改善により、医療サービスの向上が必要。
※宮古地域：宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村
- ③広域周遊観光の拡大**
岩手県の観光振興施策において位置づけられた、新たな交通ネットワークの一部である沿岸と内陸を結ぶ宮古盛岡横断道路の更なる整備により広域周遊観光拡大の支援が可能。

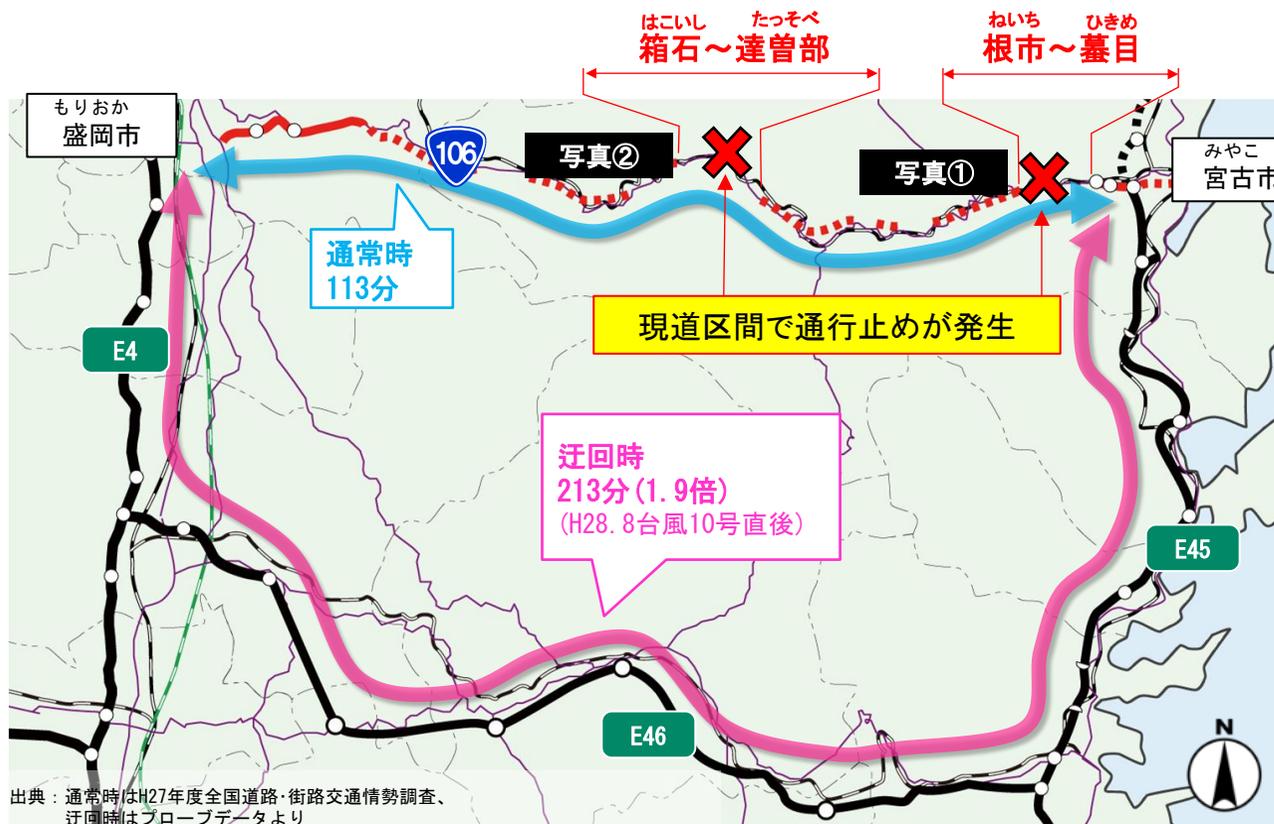
【ルート・構造案】



求められる機能 ①自然災害に強いネットワークの確保

- 国道106号現道区間では、土石流危険渓流箇所が存在するほか、通行止め時には代替路がなく広域迂回を強いられる。平成28年8月には台風第10号により道路決壊に伴う孤立集落の発生及び本復旧までの長期間の交通規制が発生するなど、ネットワークとしての信頼性が低い。
- 現道の道路寸断による孤立発生等の災害時交通障害リスクを回避し、自然災害に強い道路ネットワークの確保が求められる。

《平成28年台風第10号被災時の広域迂回発生状況》



《平成28年8月台風第10号被災状況》



求められる機能 ②救急医療活動の支援

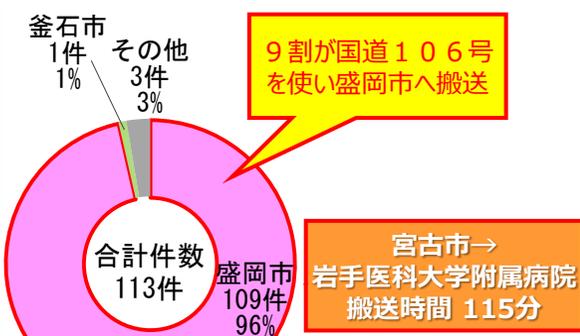
- 宮古地域※には三次救急医療施設がなく、脳梗塞などの重篤患者は約100km離れた岩手医科大学附属病院(三次救急医療施設)へ、約2時間をかけて救急搬送が必要。
- 発症から治療開始までの猶予時間が存在する中で、到着時間の短縮と走行性改善により、医療サービスの向上が求められる。

※宮古地域：宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村

《現状の搬送経路》

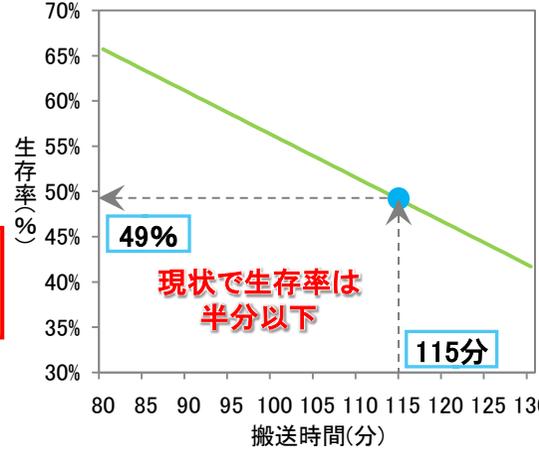


《宮古市内の救急患者の管外搬送先》



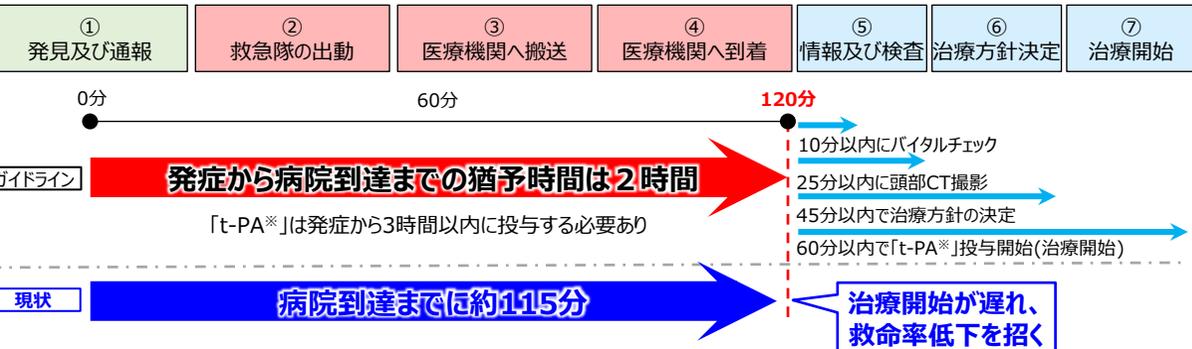
出典：宮古地区広域行政組合消防本部搬送実績(H30)
 出典：平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査(昼間非混雑時・上下平均速度)、R元年度末までに供用区間は規制速度(60・80km/h)で算出

《搬送時間と生存率》



出典：道路整備による救急医療改善効果 藤本ら(交通工学,2010年9月)の算定式より算出

《脳疾患発症から病院到着までの猶予時間及び現在の状況》



出典：米国心臓病協会ガイドライン、脳卒中治療ガイドライン2015(日本脳卒中学会)、
 参考：国立循環機器研究センター循環病状サービスHP
 ※t-PA(tissue-plasminogen activator)組織プラスミノゲン活性化因子：血栓を溶かす治療薬

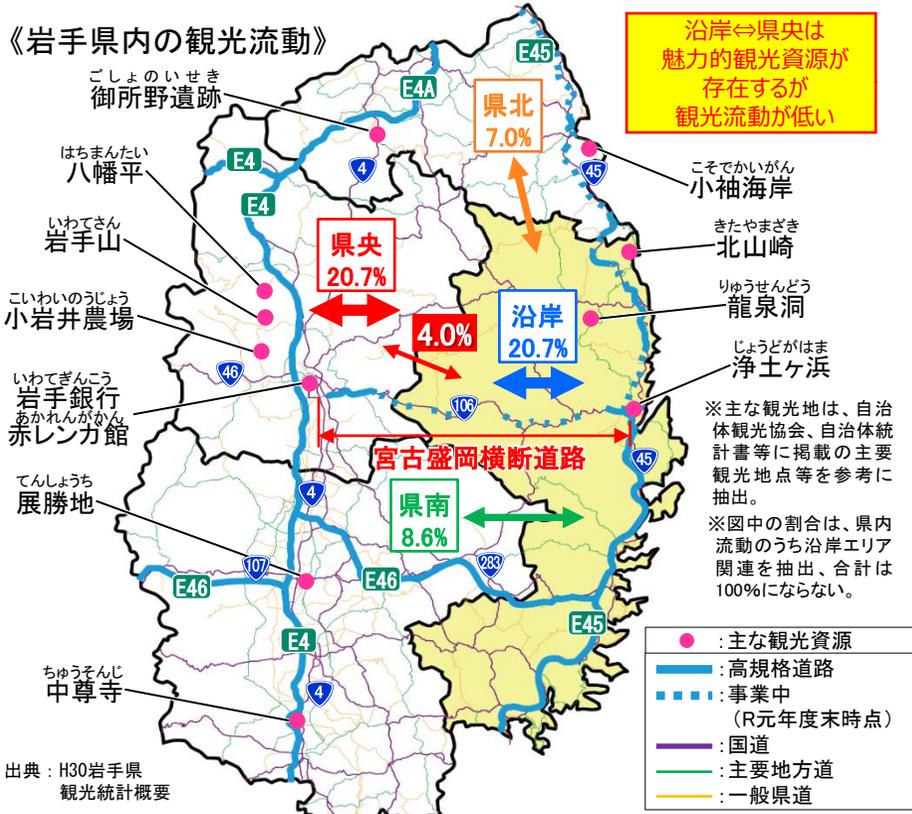
《岩手医科大学附属病院高度救命救急センターの声》

- ◆ 国道106号の所要時間短縮によって、救命率の向上が想定される。
- ◆ 搬送時間の短縮により、重症患者に対する処置を今までより早く行うことができ、合併症や後遺症の発生を防ぐ可能性が高まる。
- ◆ 道路が整備されれば、運転者や患者の負担が少なくなる。

(H29.6 岩手医科大学附属病院 高度救命救急センターヒアリング結果)

求められる機能 ③広域周遊観光の拡大

- 岩手県では観光入込客数が伸び悩む中、復興道路等の新たな交通ネットワークを生かし、外国人観光客の誘客や広域周遊観光の拡大による観光消費促進に取り組んでいるが、沿岸と県央間の横断軸観光流動が少なく、観光資源の相互連携が不足。
- 岩手県の観光振興施策において位置づけられた、新たな交通ネットワークの一部である沿岸と内陸を結ぶ宮古盛岡横断道路の更なる整備により広域周遊観光の拡大が求められる。



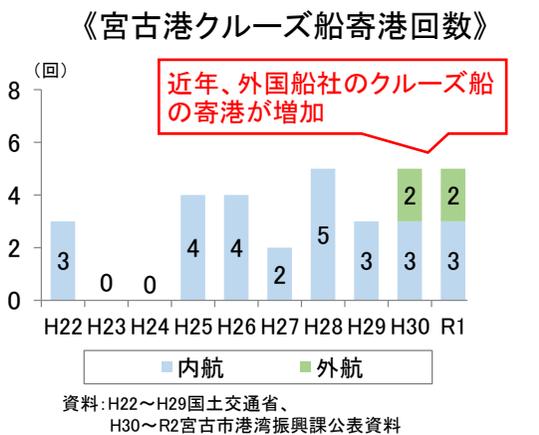
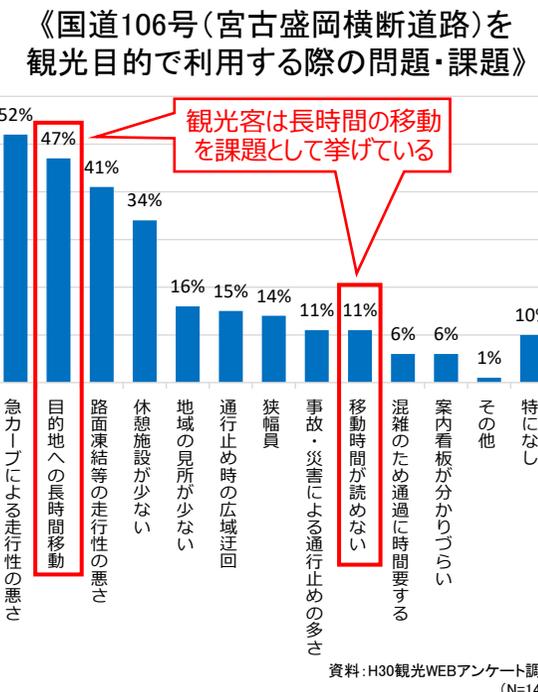
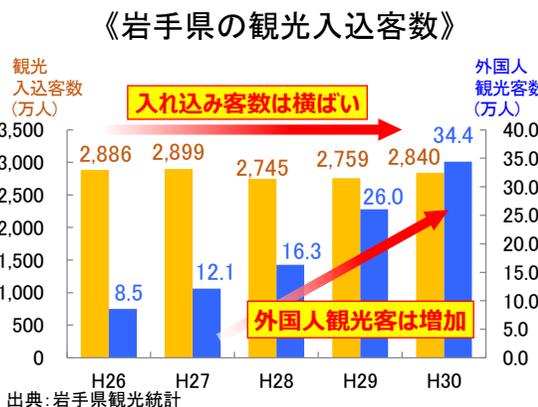
内陸の観光地

岩手銀行赤レンガ館(盛岡市)

沿岸の観光地

浄土ヶ浜 (宮古市)

道路整備により内陸・沿岸双方の広域周遊観光拡大



- ### 《各観光関係者の声》
- ◆ 現地視察を行った大手旅行会社の社員によると、盛岡～沿岸間の移動時間がかかりすぎると問題を指摘された。
 - ◆ 盛岡-宮古間の所要時間が90分程度に短縮された場合、宮古港からクルーズ船オプションツアーエリアの盛岡周辺への拡大が期待される。(岩手県 ヒアリング結果)
 - ◆ 港からの移動時間が90～120分圏域内で行き来できる観光地域を目安にしている。新幹線駅-港間が90分程度でアクセス可能になれば、岩手県内の港から乗下船するクルーズが増える。(旅行会社 ヒアリング結果)